

〈学習の導入〉

T 家で読んでみた人(児童挙手)。ノートを開いてみた人(二、三名挙手)。私は自分が小学生の頃、ノートを開いたことがあります。今になると、やってみると良かったと思うよ。

(読む人、読む場所の指示。六人。)

・ 読む人は立ってゆつくりはつきりと。聞く人は本を持って、しっかりと聞いてください。

T 本を置いてください。今日の六人の人、どの人もしっかりと読んでよかったです。ゆつくり読むということは大事なことです。これからも続けてください。

さて、昨日までの勉強。大造じいさんは猟銃で、がんをうち落とすことが、残雪が来からできなかったでしょう。へただったのか。

C 残雪が、たまの届く距離でないところに連れて行ったから。

T それで別な作戦を考えた。一年目の作戦は何だった。

C うなぎばりです。

T 釣り針の先にくつつける物は。 C たにし。

T そしてここには(糸の絵をかく)。 C くい。

T くいはこちらだ(くいの絵をかく)。 C たたみ糸。

T こういう仕掛けをいくつ作ったの。 C たくさん。

T 仕掛けるのにどのくらい時間が掛かったかという。 C 一晩中。

T そうやってとったのが何羽か。

C 一羽です。 C こんなに大量に仕掛けて一羽って・・・。

T でも、ばたばた暴れたんでしよう、その一羽。それで逃げてしまったのかと思って、次の日は仕掛け増やしたんでしょ。それでもとれない。

じいさん、誰のせいと考えた。 C 残雪。

T その証拠は。

C たたみ糸がびいんとしていたから。

T そう、一本だけでなく、全部びいんとなっていた。これは残雪の指導に違いないと思ったね。さあ、二年目は何を使って、何を・・・。

C おとり。

T おとりは行き過ぎた。その前の年。 C たにし。

T たにしをどっさりまいて。それが一日だけでなく・・・。

C 四、五日。

T そしたら、たくさん集まってきた。ここでのじいさんの失敗は何。

C 小屋を作ったこと。

T さあ、うまくいくぞ、と小屋を建ててもぐりこんで待ってた。これを見つけたのも・・・、みんな分かりますね。一緒にどうぞ。 C 残雪。

T そして三年目です。三年目、Sさんが言ってくれたからいいね。おとりなんです。おとりって分かる? C ...

*よむ



*とく



T おとりに使ったのはどれですか（黒板を指して）。

C 二年目に釣りの仕掛けでとったがん。

T おとり、つて、とりつて名前つけてるくらいだから、そういう物らしいよ。鳥を置いて仲間を集めて・・・という物。ここでのおとりは、ちよっと違うね。じいさんが口笛を吹くと・・・。

C 戻ってくる。

T 笛吹いて戻ってくる時、くつついてくるのはだれだと思っているの、じいさんは。 C 仲間。

T おとりの他に使ったのは。 C 猟銃だと思う。

T もう一つ。 C 一年前に立てた小屋。

T おととい、私は気付かなかった。この小屋をまた使いました。ここにいる、飛んできた仲間をどうするの。

C うつ。

T しかし、この作戦、邪魔が入りました。だれ。

C はやぶさ。

T 邪魔したけど、銃の届くところにとんできたのはだれですか。

C 残雪。

T その残雪が飛んできたところを、今日は書きます。

(書く場所を指示。)

あまり長い場所じゃないので、皆さんは早く書いてすばらしいけど、ゆっくりでもいいから、丁寧に考えながら書いてください。

(早く終わったYさんは、自分のノートを飲み返して丁寧に字で部分的に書き直している。)

T そこまでにしてください。途中の人もそこまでしてください。鉛筆をノートに挟んでとじます。教科書もとじます。

Tさん、これ（板書）を読んでください。

T 分からない言葉があるか。大丈夫？

「じゅうをかたに当てる」というのは。

C ハンティング・・・。

T 当てないと動いてしまつて、うまくうてない。「残雪の目には、人間もはやぶさありません」ってどういうこと？見えないの。

C 救わなければならぬ仲間のことだけ、ということ。

T 説明が上手だね。二つに分けますよ（板書を二つの部分に分ける）。

一はだれ、二はだれのこと。

C 一は大造じいさん、二は残雪のことです。

T 残雪に見えているのはだれですか。

C 仲間の姿。

T 人間とはやぶさは。見えて・・・。

C 見えているけれど、考えているのは仲間のことしか考えていない。

T 見えているけど、考えているのは仲間のことだもんね。この仲間はだれのこと。

C 一番で捕まえたがんです。

T 人間とはやぶさは残雪にすればなんと云えばいいのかな。漢字一つで。



*とく

*よむ



*かく

C 敵。

T 「敵」と板書。敵がいるのに、考えているのは仲間のことだけ。一番、二つに分けたらどこで分かれる。

C 「残雪をねらいました。」で切れます。

T (一の)前の方は、じいさんのしたこと。一言で言うよ。

C 残雪をうとうとした。

T 言葉は？ C ねらい。

T 後ろは。 C 下ろした。

T じいさん、何で下ろしたの。何で下ろしたと思う？

C なぜか。

T 何と思ったか、だね。そのなぜかはどこへ書いてある？・・・気が付いたんでしょ、何かに・・・黒板の中で考えるんだよ。

じゃ、ちよつと戻つて。ねらいましたよ。大造じいさんが残雪を銃でうつチャンスは、今まであったの。

C ありません。

T 残雪をもし、落としたら、これからは、(苦労が?)ない。この残雪を落としたらという気持ちはこの中にあるとしたら、どれ。

C 残雪をねらいました。

T ここでない言葉で、力が入っている言葉は。

C ぐつと、じゆうをかたに当てて、残雪をねらいました。

T その中のどれ。

C ぐつと。

T ここまでの気持ちを、ぐつと寄せてね。ぐつとねらいましたよ。何年かかったか分からないけど、ここからはやめたんです。じいさんが気付いたのは何だったかな。

C ...

T 残雪の、何に気付いてやめたんだ。

C 分からない。

C 残雪の目。

T この(後半の)残雪に気付いたのはだれ。

C 大造じいさんです。

T そう、そういう残雪に気付いたという話だ。読んでおしまいにするよ。

はい、また明日ね。さようなら。

* 指音読

*とく(心)

